

令和7年度
事業報告

令和7年4月 1日から
令和8年3月31日まで

公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館

1 基本方針

- (1) 「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」の二つのテーマを、「知られざるもうひとつの立山」と位置付け、博物館活動を通して広く紹介する事業を展開した。
- (2) 立山砂防の世界文化遺産登録を目指す情報発信を積極的に行った。
- (3) 立山黒部アルペンルート来訪者に、立山の自然の素晴らしさと脅威について紹介した。

2 展示活動

- (1) 常設展示、映像上映

立山カルデラの自然と歴史及び砂防を体系的に展示・紹介した。

- ① 立山カルデラ展示室

立山カルデラの生い立ち、大型地形ジオラマ、飛越地震と安政の大災害、立山カルデラの動植物・気象、立山カルデラと人とのかかわり（立山温泉、近代登山）、立山の氷河等及び立山区域平面図レプリカ等を展示。

- ② SABO展示室

立山砂防の歴史、土砂災害とは、砂防の役割、白岩砂防えん堤、工事用トロッコ等展示。

- ③ 大型映像ホール

映像プログラム「立山カルデラ大地のドラマ」「崩れ」「タイムトラベル 常願寺川」を毎日上映。

- ④ エントランスホール等

- ・ 立山の風景写真や「常願寺川砂防施設」の懸垂幕を展示。
- ・ 世界文化遺産登録に向け提案している内容を編集した映像を常時上映。
- ・ 国重要文化財指定を受けた「常願寺川砂防施設」の模型3種類を設置。
- ・ 立山の自然コーナーを設け、立山の風土について展示。



県営砂防コーナー



常願寺川砂防施設模型



立山の自然コーナー

- (2) 企画展・特別展

調査研究活動の成果を集大成して、話題性のあるテーマや常設展示で扱っていないテーマを中心に開催した。

- ① 特別展「雪の壁のひみつ」

春の立山の風物詩「雪の大谷・雪の壁」に隠された秘密を紹介。

令和7年4月15日（火）～6月8日（日） 入館者 14,501名

② 特別展「立山トンネルとトロリーバス」

2024 年に運行を終えた、立山黒部アルペンルートの特ローリーバスと立山トンネルについて紹介。

令和7年4月15日（火）～6月8日（日） 入館者 14,501 名

◆関連イベント「特別展示解説」

日時：令和7年5月24日（土） 参加者 22 名

講師：立山黒部貫光(株) 早川 氏

③ 土砂災害防止月間特別展「地震と土砂災害Ⅱ」

令和6年能登半島地震や令和6年9月能登半島豪雨など近年発生した地震と豪雨災害について紹介。

令和7年6月14日（土）～7月13日（日） 入館者 2,461 名

④ 企画展「雨－恵みと脅威－」

私たちの生活に恵みとともに脅威をもたらす雨について、その誕生の秘密、降水量、災害などを詳しく紹介。

令和7年7月19日（土）～10月5日（日） 入館者 13,627 名

⑤ 火山博ネットワーク巡回特別展「御嶽山－水蒸気噴火と火山災害－」

死者 58 名、行方不明者 5 名に達した戦後最悪の火山災害である 2014 年御嶽山噴火をはじめ、2015 年箱根火山水蒸気噴火、2018 年草津白根山噴火など近年発生した水蒸気噴火による火山災害について紹介。

令和7年10月11日（土）～12月27日（土） 入館者 5,111 名

⑥ 写真展「素晴らしい自然を」

日頃から自然に接している富山県自然保護協会の会員などが感じた自然のすばらしさや不思議さを撮影した作品を展示。

令和8年1月10日（土）～2月1日（日） 入館者 195 名

⑦ 収蔵品展「富山のいきもの」

富山にくらす鳥や獣のはく製、触れる毛皮などの標本を展示。

令和8年2月14日（土）～3月15日（日） 入館者 739 名

⑧ 公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラー大地と人の記憶－」

立山カルデラの風景や生き物、砂防堰堤や砂防工事とそれに携わる人々、そして砂防体験学習会参加者の表情を捉えた写真を集め、立山カルデラに対する理解を深める写真展を開催。

令和8年2月28日（土）～3月31日（火）（会期は4月5日（日）まで）

入館者 928 名（会期中 1,058 名）



特別展の展示風景



企画展の展示風景



収蔵品展の展示風景

(3) サテライト展示

富山県防災危機管理センター 1 階展示スペースにて、サテライト展示をおこなった。

(4) 入館者の状況

令和 7 年度の入館者は 38,911 人であり、前年度より 3,705 人（前年比 111%）上回った。今年度末での累計は 1,209,816 人となった。（9 月 19 日に開館以来の入館者数 120 万人を達成。）入館者数を月別で前年度と比較してみると、4 月・5 月は 3,636 人増加、夏休み期間にあたる 7 月・8 月は 1,601 人増加、9 月・10 月は 1,000 人減少、閑散期にあたる 12～3 月は 130 人増加した。（なお、大雪のため、1 月～2 月に計 9 日の臨時休館を実施した。）

3 立山カルデラ砂防体験学習会の開催

一般公募により見学者を募り、博物館の野外ゾーンである立山カルデラを実際に訪れ、立山カルデラの自然や歴史、砂防事業について理解を深める体験学習会を、国土交通省立山砂防事務所の協力を得て実施した。ただし、軌道の落石等被害によりトロッココースを全て中止とした。

(1) 開催状況

7 月から 10 月中旬にかけて 16 回計画し、12 回実施した。（実施率 75%）

（応募総人数は 443 名、参加者総数は 259 名であった。）

① バスコース（博物館） 【9 回計画／6 回実施 132 名参加】

最も多くの見学ポイントを巡るコースで、砂防施設や崩壊地特有の自然を実体験した。

② 〈新設〉バスコース（立山温泉跡） 【5 回計画／4 回実施 102 名参加】

立山温泉周辺のアップダウンがある山道を歩いて国の重要文化財「泥谷堰堤」に埋め込まれている護天涯の碑や噴泉を訪れるコース。本コースは健脚者向けで、山道を 1 時間以上歩けることが参加の条件。

③ バスコース（黎明期の砂防探訪） 【2 回計画／2 回実施 25 名参加】

明治～大正期に富山県が築いた立山カルデラ奥地にある石積み砂防えん堤などを訪れるコース。健脚者向けで、山道を 2 時間程度歩けることが参加の条件。安全管理者として立山ガイド協会の山岳ガイドが引率した。

(2) 解説員研修会の開催

立山カルデラ解説員、富山県砂防ボランティア協会員、立山・神通砂防ボランティア協会員を対象に、研修会を開催した。

① 第 1 回研修会 【5 月 23 日】

- ・ 講 議 「立山カルデラにおける今年度の砂防事業概要」
「2024 年能登半島地震と 2025 年ミャンマー地震に関する話題」
(富山大学名誉教授 竹内 章)
- ・ 協 議 「体験学習会の概要・変更点について」

② 第 2 回研修会 【6 月 20 日】

現地研修 バスコース（立山温泉跡地、白岩えん堤等）

③ 第3回研修会【6月25日】

現地研修 バスコース（立山温泉跡地、白岩えん堤等）

(3) 体験学習会の申込について

全てのコースにおいて、個人の応募をインターネット受付のみとした。



4 立山砂防の世界文化遺産への登録を目指す情報発信

(1) 大型映像装置（103 インチ）で「立山・黒部 世界遺産に向けて」映像をエントランスホールにおいて常時放映

(2) 講演の実施（一部抜粋）

実施日	対象	場所
6月12日	富山県公文書館 歴史講座	富山県公文書館
7月20日	富士山世界遺産センター 公開講座	静岡県富士山世界遺産センター
8月27日	高岡法科大学集中講座	高岡法科大学

(3) 2階に砂防展示コーナーを常設、模型等で常願寺川砂防施設を紹介

(4) 常願寺川砂防施設等を見学する立山カルデラ砂防体験学習会の開催

(5) 立山カルデラ、地震と洪水、川を治めた人びと、砂防等についてやさしく解説した冊子「立山カルデラたんけんブック」を来館した小学生に配付

5 普及活動

(1) 学校行事における児童生徒の利用促進

飛越大地震やその影響による常願寺川流域における土砂災害を克服してきた先人達の努力・砂防事業等を児童生徒に学んでもらうため、総合学習等による博物館への来館を提案した。来館校に対しては、学芸員が展示の解説をよりわかりやすく重点的に行った。また、小中学生を対象としたリーフレットを配布した。

(2) フィールドウォッチング

立山カルデラ以外の野外ゾーンを訪れ、立山周辺及び常願寺川流域についての自然や砂防治水についての理解を深めた。

① 「春の立山・雪の大谷」

【5月6日(火・祝) 13名】

雪の壁を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感した。

- ② 「弥陀ヶ原大地と称名滝展望」 【 6 月 8 日(日) 11 名】
歩くアルペンルートを下りつつ、火山と川によってつくられた景観を楽しんだ。
- ③ 〈新設〉「花さく夏の天狗平・弥陀ヶ原」 【 8 月 3 日(日) 23 名】
高嶺の花は何故そこに？地形や気象との関係に着目しながら高山植物を観察した。
- ④ 「立山の氷河眺望」 【 8 月 23 日(土) 15 名】
立山の氷河地形を巡りながら、雄山山頂から立山の氷河を眺望した。
- ⑤ 「室堂山とカルデラ展望」 【 9 月 7 日(日) 10 名】
室堂山へ登ってカルデラを望み、その自然や砂防事業を理解する。
- ⑥ 〈新設〉「有峰の断層と大地のかたちを探る」 【10 月 18 日(土) 13 名】
紅葉の弥陀ヶ原を散策し、松尾峠から立山カルデラを望んだ。
- ⑦ 「立山の雪を体験しよう」 【 1 月 31 日(土) 9 名】
雪の結晶づくり実験、雪壁の観察を行い、立山山麓のフィールドを歩いた。



- (3) サイエンスショー2025 【7 月 26 日(土)～7 月 27 日(日) 508 名】
県外から「実験名人」4 名を招くと共に当館学芸員も参加し、自然現象の不思議や土砂災害等の自然の脅威をテーマとしたサイエンスショー及び実験ブース展示を実施した。
講師：「雪と氷の不思議」平松 和彦 氏（土別市立博物館 特別学芸員）
「山から川、海への水と土砂の流れ」
目代 邦康 氏（東北学院大学教養学部地域構想学科 准教授）
「防災ふしぎ実験」納口 恭明 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 専門員）
罇 優子 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 職員）
- (4) 国立極地研究所共催「南極・昭和基地ライブトーク2025」 【7 月 26 日(土) 94 名】
全国の科学館や博物館と、南極の昭和基地をオンラインで繋ぎ、現地で活動中の第 66 次南極観測隊の越冬隊員から基地の内部や現地での活動について学ぶイベントを開催した。
- (5) 国立登山研修所共催「令和 7 年 安全登山サテライト Plus」【8 月 9 日(土) 会場 34 名】
山の日に安全登山に役立つ「山と自然」の知識について学ぶことのできるセミナーを開催した。（会場参加・オンライン参加併用）
- (6) 〈新設〉ワークショップ「オリジナルトートバッグをつくろう！」

1～3月に開催する写真展・特別展の関連イベントとして、開催した。

(7) 移動博物館

出前講座として、積極的に館外へ出向き、博物館のテーマに関する普及活動を行った。

- ① 立山黒部ジオパークリレー講演会 【3月1日(日) 110名】
「立山とヒマラヤ～巨大山脈の上昇」と題して、学芸員1名、講師1名による集中講座を映像ホールにて開催した。(共催：(一社)立山黒部ジオパーク協会)
講師：「ヒマラヤと立山」竹内 章氏(富山大学名誉教授)

- ② 市民大学等との連携講座
市民大学や地域公民館等において、「立山カルデラと砂防」、「立山の自然」、「立山の氷河」、「地震と活断層」、「動物と植物」等の専門的な講座を開催した。

実施日	対象	場所
5月15日 5月29日 6月26日	富山市民大学「うまい水のルーツを探る」	大山会館 博物館
5月16日	県民カレッジ「教養講座」	富山地区センター
6月11日 7月23日	富山市民大学「立山黒部ジオパークを知る」	市民学習センター
6月14日	県民カレッジ新川地区センター講座	県民カレッジ新川地区センター
8月31日	立山町ふるさと講座「常願寺川の自然と災害」	立山町商工会議所
7月28日 29日	さばえけものアカデミー	福井県 鯖江公民館
9月11日 10月9日	富山市民大学「富山の環境」	市民学習センター
9月25日	南砺市民大学「ふるさとを巡る」	博物館周辺

- ③ 高等学校等自然科学フィールド研修への協力
実施団体：富山県立富山高校、入善高校、千葉市立千葉高校、立命館守山高校、東海中学校(愛知県)

(8) 国、県、関係団体との連携

国、県や関係団体と積極的に連携・協力し、普及活動を行った。

- ① 立山砂防事務所との連携
「水辺の楽校」活動を支援した。
- ② 立山砂防女性サロンの会との連携
立山砂防女性サロンの会制作のかたりべ絵本「カモシカのカルデラ物語」の読み聞かせ会や読み聞かせ動画の上映会を実施した。
- ③ 富山県砂防課との連携
けんせつテックフェスへの参加 等

④ 地域との連携

立山夏山開きへの参加、千寿ヶ原フェスや立山駅 70 周年記念プロジェクトへの協力 等



絵本読み聞かせ



サイエンスショー



博物館講座

6 調査研究活動

博物館のテーマに関わる調査研究、資料収集を積極的に実施し、その成果を博物館活動（展示、普及活動等）に利活用した。また、調査研究は、文部科学省科学研究費補助金の助成等の外部資金も得て実施した。

(1) 令和 7 年度における調査研究（主なもの）

① 立山連峰で発見された氷河の形成維持機構に関する調査および新たな氷河の確認調査

成果：御前沢氷河、三ノ窓氷河、小窓氷河等で、ドローンや航空機による測量を実施して、各氷河の変動傾向を継続観測した。また、登山道としても利用されている刃沢雪渓について、その変動傾向を明らかにした。そのほか、三ノ窓氷河で行ったボーリング調査の結果を学会誌へ発表した。

② 治水史料・砂防の調査

成果：高田雪太郎史料の翻刻を継続した。また、発見された大正昭和の土木技術者、蒲学の史料について引き続きその解析を行った。

③ 立山、立山カルデラの火山活動（地殻活動）、堆積物についての調査

（含 東京工業大学等との共同研究）

成果：火山活動が活発化している地獄谷や新湯について、継続モニタリング調査を実施し、近年の活動状況を明らかにした。また、パネルやパンフレットで、火山災害と防止策について立山を訪れる登山者、観光客へ啓蒙普及した。

④ 立山山岳地域における降水量、積雪量調査（含 名古屋大学との共同研究）

成果：高山地域の積雪量、冬期降水量を継続測定した結果、冬期降水量は平均で 3000mm を超える世界的な量であることが判明した。高山地域の雨量については、室堂でモニタリング観測を継続した。成果は TKK と連携して、イベント展示物等として提供した。また、富山県道路公社等と連携して、雪の大谷周辺の積雪雪崩調査を継続して、雪崩対策に供した。

⑤ 立山・立山カルデラにおける動物の生息・生態調査

成果：ツキノワグマの異常出没が発生したため、立山、立山カルデラ、立山山麓地域でのツキノワグマの出没状況、痕跡についての追跡調査を実施した。また、遭遇した際の対策について、メディアを通して広く県民に普及した。そのほか、立山カルデラ

内で引き続きイノシシの痕跡が増加傾向であることを確認した。さらに、立山砂防事務所、北陸電力等からクマやスズメバチ等に関する情報を得て、工事関係者への対策をアドバイスした。

⑥ 立山カルデラの植生調査（県中央植物園等との共同研究）

成果：カルデラ内の植生遷移を確認するため、航空写真資料の収集解析を継続して実施した。また、博物館の見学会や展示で研究成果を広く普及した。

⑦ ドローンを使用した空撮動画、写真の収集調査

成果：発見された氷河や、立山カルデラ内の砂防施設のドローン撮影を実施し、展示や普及活動に利活用した。



7 情報提供事業

(1) 年報の発行

博物館の一年間の活動を集約する年報を発行した。

(2) 博物館だよりの発行

「研究と解説」「活動報告」「ニューストピックス」「砂防ページ」等で構成した博物館だよりを発行し、博物館情報の周知に努めた。

(3) イベントポスター・イベントガイドの発行

「イベントポスター」「イベントガイド・リーフレット」の他、毎月「イベントニュース」を発行し、博物館のイベント等の広報に努めた。

(4) ホームページによる情報提供 等

- ① ホームページを頻繁に更新し、各種イベント及び最新の情報を提供した。
- ② ソーシャルネットワーキングサービス（Facebook、Instagram、X 等）で、リアルタイムの情報を提供した。また、フォロー&リポストキャンペーンを実施した。
- ③ 館内で Free Wi-Fi を提供し、来館者の利便性向上に努めた。

(5) 友の会活動

- ① 交流視察会（石川県白山方面）の開催
- ② ジオツアー（岐阜県飛騨方面）の開催
- ③ 解説部会活動
 - ・部会ミーティング 5 回
 - ・研修 5 回
 - ・繁忙期の館内解説（GW、夏休み期間、秋の連休延べ 40 名参加）
 - ・千寿ヶ原ガイドツアー（千寿ヶ原ぶらさんぽ） 4 回 21 名参加